

# イノベーション論

担当者 太田 一樹

開講時期 後期 単 位 2

## ●講義の概要

本講義ではイノベーションの概念や理論、そして事例を分析する。講義の流れとしては、イノベーションの概念や代表的な理論について学ぶ。適宜、ビデオ教材やインターネットも活用する。ディスカッションをしながら基礎理論や実践的知識が修得できるような授業形式（アクティブ・ラーニング）を考えている。そのため、毎回の出席と積極的な議論への参加が必要とされる。イノベーションに関する修士論文作成予定の受講生には最近の研究題材についても紹介する。

## ●講義の到達目標

- ①イノベーションの概念と理論に関する知識を修得する。
- ②イノベーションの事例を分析する能力を養う。
- ③イノベーションに関する理論などを批判的に検討できる能力を養う。

## ●講義計画

- 第1回：イノベーションとは何か
- 第2回：イノベーションのプロセス
- 第3回：イノベーションのパターン
- 第4回：ラディカル・イノベーションとその影響
- 第5回：アーキテクチャル・イノベーションとその影響
- 第6回：技術ロードマップの作成と活用
- 第7回：業界標準のマネジメント
- 第8回：製品アーキテクチャのマネジメント
- 第9回：新製品開発プロセスのマネジメント
- 第10回：組織マネジメント
- 第11回：企業間関係のマネジメント
- 第12回：ビジネスモデルのマネジメント
- 第13回：イノベーションとアントレプレナーシップ
- 第14回：イノベーションと経済政策
- 第15回：総合演習（今までの学習成果を確認する）

## ●成績評価基準と方法

上記の到達目標の達成度を測るために、次の方法で評価する。

- ①授業参加状況と発言内容：50%
- ②レポート課題：50%

## ●テキスト又は参考文献

テキストについては受講生の関心と知識レベルを勘案して相談しながら決める。また、参考文献については適宜紹介する。

## ●受講上の留意点

- ①予習・復習（テキストおよび配布論文）は必ずやること
- ②経営理論に関心を持ち批判的に論文を読む習慣をつけること
- ③議論を建設的なものにするために、毎回出席のこと。
- ④できるだけ論理を意識しながらディスカッションを丁寧に行うこと。